



熱中症について。

青山病院副院長 宮里 浩司

この夏は異常で、天気予報では命に関わる危険な暑さの文言とか、多くの方が熱中症で病院に搬送され、死者も出ています。ここでは、熱中症についてお話します。

◎熱中症とは 高い気温下で、体温の調節機能が破たんして脱水や塩分濃度のバランスが崩れ発症する障害の総称です。

◎症状 熱中症の重症度はⅠ～Ⅲ度に分類されています。

Ⅰ度：立ちくらみや筋肉の痛みなどで、現場での応急処置で改善することが可能です。

Ⅱ度：頭痛、嘔吐、倦怠感、虚脱感などで病院での治療を必要とする中等症です。

Ⅲ度：Ⅱ度の症状に加えて、意識障害、けいれん、手足の運動障害、高体温などを来し、集中治療が必要とされる重症な状態で死亡する危険性も高いです。

◎現場での応急処置

①涼しい環境へ避難

風通しの良い日陰やクーラーの効いている室内に避難します。

②冷却

冷水などのペットボトルやビニールに入れたクラッシュドアイスなどで、前頸部、腋の下太腿の付け根などに当てて冷やします。

③水分・塩分の補給

水分補給は大切ですが、緑茶やコーヒー、アルコールなどは避けます。これらには利尿作用があるため、脱水を悪化させる可能性があります。また大量に発汗している場合は経口補水液やスポーツドリンクなどが良いと思います。



熱中症は防げる病気なので、気を付けてこの夏を乗り切りましょう。



本館看護師長
住本 順子

「ご意見箱」へお気軽にご投函ください。



接遇研修を終えて

医療はサービス業ではありませんが、今では病院でも接遇研修が行われる所が当たり前のようになっています。この度、当院に於いても6月25日・7月2日と2日間に分けて全職員を対象に接遇インストラクターの平儀野先生を講師にお招きして「接遇研修」を開催しました。

接遇の5原則は①「あいさつ」②「言葉遣い（敬語・話法）」③「表情（笑顔）」④「態度（振る舞い）」⑤「身だしなみ」です。

これら5つの内、どれか一つでも欠けるとゼロになってしまう為、注意が必要であるという事を教えて頂きました。

例えば、キチツとした身だしなみで言葉遣いも良いけど固い表情（無表情）であれば、話しかけづらいとされる事があり、ゼロになってしまうという事になります。そして、当たり前の事だとは分かっていましたが、個人の対応が病院全体の評価（印象）になってしまいう事を改めて実感し、一人一人が組織人として気を付けなければと思います。

今回、医師を含む83名がこの接遇研修を受ける事が出来ました。

何かお気づきの点がございますしたら受付ロビーに設置されている「ご意見箱」へお気軽にご投函ください。

診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
休診日：日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）・お盆（8月15日）

担当医 （月曜日午後及び土曜日午前中は担当医師が週により変更となります）

月曜日	午前：青山	午後：内科（交代制）	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：大村	午後：宮加谷	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：宮加谷	午後：腎臓内科 （進藤・門野）	土曜日	午後：神経内科（六車） 午前：内科（交代制）	

季節の風景（特別編）



断水に対処し給水作業を行いました。断水中は患者様・ご家族様にご不便をおかけし申し訳ありませんでした。節水のご協力に御礼申し上げます。